（第３号様式）(Form No. 3)

学 位 論 文 要 旨
Dissertation Abstract

氏名：　島　上　宗　子
Name

学位論文題目：　インドネシア農山村における地域社会組織の動態に関する研究
Title of Dissertation

学位論文要旨：
Dissertation Abstract

本研究は、インドネシアにおける行政村の形成、村落開発、森林管理に関連する政策実施をめぐって、各地域に立ち現れた人々の組織的行動の特徴に注目することで、地域社会には人々の組織化を促す社会的基盤があることを明らかにし、その動態をとらえることを目的とした。この目的にアプローチするため、次の 3 つの課題を設定した。すなわち、1）行政村の形成過程に着目し、自生的な村落との関係をマクロとミクロの視点で明らかにする、2）開発組織の形態とパフォーマンスに着目し、コミュニティの特質と動態を捉える、3）コミュニティ基盤型森林管理のあり方からコミュニティの動態を捉える、である。

本研究では、次の枠組みと視点、アプローチから、上記の課題に取り組んだ。すなわち、a）地域社会にみられる組織の形態を「協同組織」「開発組織」「社会組織」「行政組織」の 4 つに類別し、それぞれの重なり具合、連関と相互作用をみる「地域社会システム」の枠組み、b）村内のミクロな実態と、地方政府、国、国際レベルでのマクロな政策や政治経済的状況を往還しながら、ミクロとマクロのつながり、理念と現実のズレに着目する視点、そして、c）なんらかの介入や変化が起こった際にみられる人々の組織的対応と組織の形成プロセスに注目して地域に内在する組織化のメカニズムを考察する「組織過程論アプローチ」である。

第 1 部では、インドネシアにおける行政村の形成とそれに伴う地域社会組織の動態を検討した。多民族国家インドネシアでは、地域により多様な村落をいかに国の行政機構に位置づけるかは、植民地期以来の主要な国家課題となってきた。インドネシア共和国憲法は、地域に固有な村落共同体の存在と権利を尊重することを謳っている。しかし、実際の行政村の設置をめぐっては、村落の名称・単位・機構を可能な限り画一化・標準化させる法令・政策が実施されたり（1979～1999 年）、村落の多様性・固有性を尊重する法令・政策が出される（1999 年以降）など、その方向性は大きな転換を繰り返してきた。第 1 章では、こうした行政村をめぐる法令・政策の変遷を整理するとともに、4 州 8 村での踏査から、ジャワとジャワ外で村落行政のパフォーマンスに違いがみられることを明らかにした。第 2 章、

第３章では、そのパフォーマンスの違いの背景を、ジャワ島 D 村とスラウェシ島のタナ・トラジャ県における行政村の再編の歴史から考察した。

第 2 部では、村落開発政策の展開に伴い、村々でいかなる組織的対応がみられたかを考察した。第４章では、ジャワ島 D 村を事例に、開発組織の組織化状況を明らかにした。D 村では 1970 年代以降、官製組織が急増し、1994 年の時点で村内に 124 グループが確認できた。スハルト政権以前の状況、以後の変化に触れ、住民の組織化状況を歴史的文脈に位置づけた。第５章では、D 村の官製組織の約 8 割が実施していたアリサン(頼母子講)に注目し、官製組織が急増した背景を村人の小規模金融への需要という側面から考察した。第 6 章では、全国的に展開された村落開発プロジェクト(PNPM)の、ジャワ島とスラウェシ島の４村における展開状況を検討した。特に、プロジェクトを構成する小規模金融活動での未返済問題において、人々の対応のあり方に際立つ違いが見られたことに注目し、その違いから地域社会組織の特質を４つに類型化した。

第 3 部では、スハルト退陣後、各地で活発化したコミュニティ基盤型自然資源管理を進める動きをめぐって、村々でいかなる組織的対応がみられたかを検討した。第 7 章では、インドネシアの森林法制度は村落をいかに定義し、位置づけてきたかを概観し、改革期の代表的な住民参加型森林管理スキームであるコミュニティ林政策の展開状況を、ランプン州 SA 地区を事例に検討した。移民集落である SA 地区でグループの組織化と強化が可能となった要因を分析した。第 8 章では、森に対する村の慣習的権利の認知を求める人々の取り組みを、中スラウェシ州のマレナ集落とトンプ集落を事例に検討した。両集落とも、人々の自然との関わりは多様であり、その関わりを律する慣習的規範は、自然を管理・利用する対象として客体化する近代的自然観に基づく枠組みでは表現しがたいものであった。そうした中、マレナ集落では、慣習的規範の成文化・地図化を進め、行政組織と慣習組織とをリンクさせ、再編をはかることでで、慣習的権利の公的認知を獲得する一方、トンブ集落では、社会組織と行政組織の乖離により、組織的行動が進みにくい状況を明らかにした。

終章では、各地域でみられた地域社会組織の特徴と動態をまとめるとともに、本研究から導き出せる研究・実践面でのインプリケーションを指摘した。